

| 平成 20 年度 |

びわ湖ホール
劇場サポーター活動記録集



滋賀県立芸術劇場

びわ湖ホール

BIWAKO HALL CENTER FOR THE PERFORMING ARTS, SHIGA

はじめに

昨年 9 月にびわ湖ホールは開館 10 周年を迎えました。劇場サポーターの活動は開館 2 年前の平成 8 年度（1996 年度）から始まつていて、この 3 月で丸 13 年、この間のサポーター経験者は 450 人となります。

活動初年度の平成 8 年度には、びわ湖ホールの建物は未だ建つていなかつたのですが、この年の「劇場サポーター活動記録」を読んでみると、初代サポーターの皆さんのがわ湖ホールや舞台芸術に対する熱い思いが伝わってきます。「劇場がただ単に作品を紹介する器というだけではなく、人と人が出会い、交わる場所として機能すれば、きっと新しい風が“湖都”に吹くことになると思います」（清水さん）。「『びわ湖ホール』を決して一部愛好家だけのものに終わらせないよう、つねに感動のネットワークづくりに心がけていこうと決意を新たにしています」（花田さん）。「舞台芸術に関心のある人がサポーターの経験を通して更に舞台を好きになり、そのまわりの人に影響を与える。一人から始まる小さな輪がどんどん大きく広がり、びわ湖ホールへ足を運ぶ日を楽しみに思う人が益々増えてほしい、そう願っています」（廣岡さん）。「このサポーター活動を通して、地域・世代を超えて大変多くの方と知り合えたことを本当に嬉しく思っています」（石黒さん）。

13 年経つ今も、初代サポーターの人たちの思いは脈々と受け継がれています。平成 17 年（2005 年）には自主交流会ができ、世話人の方々を中心に自主的な活動が一層盛んになり、OB・OG の人たちともつながりが深まりました。昨年 3 月には、びわ湖ホールを半年休館にして、その後民間事業者を含めた公募により指定管理者を決定するという動きがあるとの報道を受けて、サポーターの人たちを中心が始まった署名活動が全国に広がり、短期間に 3 万人近くの人たちの署名が集まりました。びわ湖ホール支援の輪が全国にあつという間に広がったのは、劇場サポーターの人たちが培ってきた活動がしっかりと根を張っていることの証でもありました。

劇場を取り巻く昨今の社会経済環境は大変厳しいものがありますが、こういう時こそ舞台芸術の真価が問われるときです。劇場サポーターの皆さんのがわの志と力で、びわ湖ホールをめぐるネットワークをより強固なものにし、人々を信頼でつなぎ未来への活力を生み出していただけることを期待しています。

平成 21 年（2009 年）3 月

財団法人びわ湖ホール

理事長・館長 井上建夫

目 次

平成 20 年度劇場サポーター研修の概要	
第 1 回 舞台芸術基礎講座〈オリエンテーション/舞台見学編〉	1
第 2 回 舞台芸術基礎講座〈舞台用語編〉	2
第 3 回 舞台芸術基礎講座〈オーケストラ編〉	3
舞台稽古見学・鑑賞研修・その他	4
平成 20 年度劇場サポーター自主活動の概要	7
平成 20 年度びわ湖ホール劇場サポーター運営要綱	9
劇場サポーターの声	11

平成20年度劇場サポーター研修の概要

第1回 舞台芸術基礎講座〈オリエンテーション/舞台見学編〉

日 時 平成20年4月20日(日) 10:00~12:00

場 所 滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール
大ホール・中ホール・研修室

- (財)びわ湖ホール 井上建夫理事長のあいさつ
- 2008年度のびわ湖ホール自主事業計画について説明
- 劇場サポーター制度の概要およびサポーターの活動について説明
- びわ湖ホール施設・舞台裏見学(大ホール・中ホール)



第2回 舞台芸術基礎講座 <舞台用語編>

日 時 平成20年11月9日(日) 10:30~12:00

場 所 びわ湖ホール 研修室

■ 講 義

標 題：「劇場で使われる用語・舞台用語について 2008」

講 師：小 野 隆 浩 (財)びわ湖ホール事業部)

講義内容：舞台芸術を鑑賞する上で、知っていると楽しい基本的な舞台用語について、その由来など解説を加えながらの講義がありました。



第3回 舞台芸術基礎講座 <オーケストラ編>

日 時 平成21年1月10日(土) 13:30~15:30

場 所 びわ湖ホール 研修室

■ 講 義

標 題：「オーケストラの舞台裏

～華やかなスターとの共演から、運営、アーティストの素顔など～」

講 師：西 濱 秀 樹 氏（関西フィルハーモニー管弦楽団 理事・事務局長）

講義内容：オーケストラの魅力やその楽しみ方について、運営に関する裏話やオーケストラと指揮者の関係などの話を交え、オーケストラの現場で仕事されている方ならではのお話がありました。



びわ湖の夏・オペラ ビエンナーレ 歌劇『フィガロの結婚』関連企画への参加

○ プレトーク・マチネ

日 時 平成 20 年 5 月 24 日 (土) 14:00 ~ 16:00

場 所 びわ湖ホール 中ホール

- 指揮者のキンボー・イシイ・エトウ氏らによる公演の観どころ、聴きどころの解説とキャストによる演奏。

○ オペラ特別講座「〈歌手〉で知るオペラの魅力」

日 時 平成 20 年 6 月 1 日 (日) 13:30 ~ 16:30

場 所 コラボしが 21 3 階大会議室

講 師 加藤 浩子 氏 (慶應義塾大学・早稲田大学講師、音楽評論家)

- オペラ歌手の声をテーマに、オペラの魅力を紹介する講座。

○ スペシャルトーク「極めるモーツアルト～《フィガロの結婚》を中心に～」

日 時 平成 20 年 6 月 15 日 (日) 14:00 ~ 15:45

場 所 ピアザホール

講 師 海老澤 敏 氏 (音楽学者)

- モーツアルト研究の第一人者、海老澤 敏 氏によるスペシャルトーク。

○ 公開リハーサル

日 時 平成 20 年 6 月 21 日 (土) 14:00 ~ 15:30

場 所 びわ湖ホール 中ホール

- リハーサルの見学

※ プレトーク・マチネ、オペラ特別講座、スペシャルトーク、公開リハーサルは一般の方向けの企画ですが、サポーターも参加しました。

○ ゲネプロ見学

日 時 平成 20 年 7 月 16 日 (水) 14:00 ~ 15:30

場 所 びわ湖ホール 中ホール

- ゲネプロの見学

※ 青少年向けの企画ですが、サポーターも参加しました。

『わくわく☆ドキドキ♥劇場探検ツアー』ゲネプロ見学

日 時 平成 20 年 8 月 29 日 (金) 20:00 ~ 22:00

場 所 びわ湖ホール 大ホール

- ゲネプロの見学

沼尻竜典オペラセレクション 歌劇『サロメ』関連企画への参加

○ プレトーク・マチネ

日 時 平成 20 年 9 月 13 日 (土) 15:00 ~ 17:00

場 所 ピアザホール

- 指揮の沼尻竜典芸術監督らによる公演の観どころ、聴きどころの解説とキャストによる演奏。
- ※ 一般の方向けの企画ですが、サポーターも参加しました。

○ ゲネプロ見学

日 時 平成 20 年 10 月 10 日 (金) 14:00 ~ 15:50

場 所 びわ湖ホール 大ホール

- ゲネプロの見学

※ 青少年向けの企画ですが、サポーターも参加しました。

びわ湖ホールプロデュースオペラ 歌劇『トゥーランドット』関連企画への参加

○ プレトーク・マチネ

日 時 平成 21 年 2 月 21 日 (土) 14:00 ~ 16:00

場 所 びわ湖ホール 中ホール

- 指揮の沼尻竜典芸術監督らによる公演の観どころ、聴きどころの解説とキャストによる演奏。

○ ゲネプロ見学

日 時 平成 21 年 3 月 13 日 (金) 14:00 ~ 16:45

場 所 びわ湖ホール 大ホール

- ゲネプロの見学

○ オペラ・ワークショップ

日 時 平成21年3月15日(日) 10:00~11:15

場 所 びわ湖ホール 大ホール

- 演出の栗國淳氏による舞台装置や舞台衣装の解説と舞台見学。

※ プレトーク・マチネ、ゲネプロ見学、オペラ・ワークショップは一般の方向けの企画ですが、
ソポーターも参加しました。

◎ 舞台芸術 公演鑑賞研修

様々な舞台芸術に触れていただくため、びわ湖ホールの主催公演を「オペラ・オーケストラ編」「演劇・ダンス編」「室内楽・びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演編」の3ジャンルに分け、各編より1公演ずつ、年間計3公演を観ていただく「公演鑑賞研修」を実施しました。

平成 20 年度劇場サポーター自主活動の概要

1. サポーターの集い・ミニ部会（ジャンル別）の開催

- (1) 4月 5日 (土) ハイキング “奈良「十一面観音」を訪ねる”
- (2) 4月 20日 (日) 新サポーター歓迎茶話会
- (3) 4月 26日 (土) 演劇・古典芸能分科会 “現五世坂東玉三郎の舞踊”
- (4) 5月 17日 (土) ハイキング “ご当地ハイキング 高島市”
- (5) 5月 25日 (日) オペラ・声楽分科会 “DVDによるオペラ鑑賞”
- (6) 6月 15日 (日) バレエ・ダンス分科会 “パ・ド・ドゥ（男女ペアの踊り）を楽しむ！”
- (7) 6月 29日 (日) 猥親会 びわ湖ホール内「レストラン オペラ」にて
- (8) 7月 27日 (日) シンフォニー・器楽分科会 “♪コミックのだめコンサート♪”
- (9) 8月 24日 (日) 演劇・古典芸能分科会 “勧進帳”
- (10) 9月 7日 (日) オペラ・声楽分科会 “サロメ/プラボー講座”
- (11) 10月 19日 (日) バレエ・ダンス分科会
“『ロミオとジュリエット』の映画とバレエを比較して”
- (12) 11月 16日 (日) シンフォニー・器楽分科会
“どちらがお好き？ モーツアルト vs ベートーヴェン”
- (13) 12月 6日 (土) ハイキング
“紅葉の大山崎 アートとハイキングで心も身体も動かしましょう”
- (14) 12月 7日 (日) 合同分科会
クリスマスパーティー びわ湖ホール内「レストラン オペラ」にて
- (15) 1月 25日 (日) 演劇・古典芸能分科会 “LET'S TRY./ 朗読ワークショップ☆”
- (16) 2月 21日 (土) オペラ・声楽分科会 “日本におけるオペラの歴史/
『トゥーランドット』の観どころ・聴きどころ”
- (17) 3月 8日 (日) バレエ・ダンス分科会
“ミハイル・バリシニコフの『トン・キホーテ』映像観賞”

2. サポーター通信の発行

サポーター同士のコミュニケーションを図り、びわ湖ホールをはじめとする、あらゆる舞台芸術の面白さを外部に向けて発信することを目的とした「サポーター通信」は、1998年10月から1999年6月までに創刊準備号、創刊準備第2号、創刊準備第3号。そして2000年には名称を“Harmonia”（ハルモニア）として昨年までに創刊号～第21号、今年は第22号～第23号を発行した。

- (1) 5月 “Harmonia” 第22号
- (2) 11月 “Harmonia” 第23号

3. サポーターーメーリングリスト

サポーター同士の連絡・交流用に、eメールによるメーリングリストに、希望するサポーターを登録。公演の感想やミニレクチャーなどに幅広く活用されている。

4. ビデオライブラリー

サポーター個人から寄贈された200本余の「オペラ公演ビデオテープ」を、サポーターの誰もが自由に借り出して観ることができるようしている。

平成20年度びわ湖ホール劇場サポーター運営要綱

1. 趣 旨

地域や職場、友人など、人のネットワークを生かして、びわ湖ホールとそこで上演される舞台芸術を生活に身近なものと感じる愛好者の輪を広げることを目的に、びわ湖ホール劇場サポーター（以下「劇場サポーター」という。）を設置します。

2. 劇場サポーターの役割

- (1) 劇場サポーターは、ボランティアとして、舞台芸術に関する情報やびわ湖ホールの公演情報を地域や職場等に届けていただき、チケットの販売促進につなげていただきます。
- (2) 舞台芸術に関する地域の情報や、びわ湖ホールでの公演の評価および提案を隨時提供していただきます。
- (3) びわ湖ホールは、劇場サポーターの自主的な活動を尊重し、劇場サポーター間の交流を図ります。
- (4) 劇場サポーターは、びわ湖ホールの公演や地域の情報だけでなく、劇場サポーターの運営に関し提案することができます。

3. 劇場サポーターの定員と登録

公募により選ばれた方を劇場サポーターとして登録し、定員は100人、登録期間は3年間とします。
(再任は1回限り・最長任期6年)

4. 平成20年度活動

- (1) 舞台芸術に関する研修の受講
 - ・基礎講座
 - ・ワークショップ
 - ・鑑賞研修
 - ・舞台稽古の見学、プレトーク等の関連事業への参加
- (2) 舞台芸術の公演鑑賞研修

劇場サポーターの舞台芸術に対する理解を深めるため、びわ湖ホール主催公演をジャンルごとに選択し、鑑賞していただきます。
- (3) 舞台芸術情報やびわ湖ホールにおける公演情報の地域や職場、友人等への広報
 - ・口コミによるPR活動
 - ・チケット予約の受付
- (4) 舞台芸術に関する地域の情報、およびびわ湖ホールにおける公演に関する友人などの感想や反応等の報告
 - ・劇場サポーターレポートの提出
 - ・活動記録集用の原稿提出

(5) 自主活動

- ・交流会、レクチャー会などの開催
- ・劇場サポーター通信 (Harmonia) の発行

5. 劇場サポーターの内訳

【期 別】

11期	23名
12期	25名
13期	40名

【住所別】

●滋賀県	62名
大津市	34名
草津市	11名
守山市	5名
野洲市	2名
近江八幡市	1名
甲賀市	1名
東近江市	2名
彦根市	1名
米原市	1名
長浜市	1名
高島市	2名
伊香郡	1名
●京都府	19名
●大阪府	4名
●兵庫県	1名
●愛知県	1名
●岐阜県	1名

計 88名

劇場サポーターの声

こんなにしていただけで ありがとう

P A R T VI(終章)

第11期 井関 彰

小生の今年度1月末日現在の行動は、次のとおりでした。

－4月より体調を崩し、参会が減りました－

20. 6.29 沼尻&トウキョウモーツアルト

” 自主交流会&パーティー

7.19 オペラビュンナーレ「フィガロの結婚」

9. 7 自主交流会

” 10周年記念オペラガラ・コンサート

10. 12 沼尻オペラ「サロメ」

18 「ファンファーレ・チェカリーナ」

12. 7 自主交流会&10周年記念パーティー

21. 1.10 基礎講座・オーケストラ編

25 自主交流会

2.21 自主交流会

プレトークマチネ「トゥーランドット」

3.14 オペラ「トゥーランドット」

◎サポーター着任から6年間、①プロデュースオペラを鑑賞し輝かしい作品となった②四半期の劇場サポーター公演レポートは全て提出した③同期(8.11)で2005.7月に再生した自主交流会は、4分科会で賑わっている(少し自賛)

◎次のような送信があり、ご本人に許容(一部変容)いただき提言します。

サポーターは「幕府を支える忍者」で 1.普段は体を鍛えながら、田畠を耕している 2.幕府に一大事があれば動き始める 3.任務を遂行すれば再び日常生活に戻る。びわ湖ホール(幕府)は自ら抱えている問題点をはっきりできず、無自覚にサポーター(忍者)にただ要請するばかりです。私たちには頭領のいない現役と引退した忍者で楽しんでいる、自主交流会がありますが、当会の趣旨は全く別途です。 －楽しんだ6年間どうもありがとうございました－

劇場サポーター 活動記録集

11期 川口 美保子

サポーター3年目で 最終年になりました。

館長の「サポーターの誘いが無かつたら びわ湖ホールの扉が開かれていなかったかもしれない」を肝に命じました

初年度は座学 分科会は 少ない参加でした。

初年度の歌舞伎「勘三郎襲名披露公演」には近所の方と 9名が観劇することができました。

それ以来 その方々の知人の 県外から定期的に来られ交流も深めておられます。

歌舞伎、狂言は専用劇場ではありませんが ホールまでの距離・公演時間・値段も気軽ですので 毎年取り纏めを頼まれます。

2年目は家を空けやすくなり 座学、プレトークマチネ、ゲネプロ、分科会と参加が増えました。又サポーターがあることを紹介しました。2名の方が応募され、活躍されています。

3年目はマチネ、公開練習、ゲネプロ、分科会と一連の研修にも参加ができました。

基礎講座、分科会では幅広く 又 奥深く、音楽 楽団 演劇の周辺の事を多く学ぶことが出来た事は 本当に幸せでした。

夫婦でオペラも見ることが出来、今後も時々音楽の時間が持てそうで嬉しく思います。

又 高齢の夫妻の観客を見て 私も あの年になっても健康で音楽を楽しめるであろうかと考えさせられます。

毎月のサポーターレポートの報告では 皆さんの活動も参考になります。

私の近所 関わりの団体、グループ ケーキ店 美容院 ディーラー等に配ります。

お互いに時間がある時は まずロビーコンサートの事など伝えて びわ湖ホールに足を運んでいただけたらと思って伝えています。

ニューヨークで劇場に足を運ばれた方もあり、楽しい話も聞かせてもらいます。こんな時間を持てるのもサポーターならではだと思います。

若いころ本物に触ることが出来たこともあり、ぜひとも 青少年期に素晴らしい体感をしてほしいと思って 青少年団体にも呼びかけを続けています。 まずは登録から思っています。

夏休み・春休みには ぜひとも ロビーコンサートに来てほしいものです。

6年間を振り返って

(11期) 酒井寛治

新しく始まる未知の活動に、わくわくする思いでサポーターになって6年。この3月で任期を終えるが、気持ちは引き続きびわ湖ホールの熱烈なファンであり、サポーターでありたいと思っている。

<サポーターの任務>

応募時に示されていた3つの任務は、真面目に務めたであろうと自己採点している。

①観客の創造

私自身が初めてびわ湖ホールに足を踏み入れた時の感動を、より多くの人に知って貰いたいという思いで、知人友人への口コミは言うに及ばず毎月のチラシ配布を務めてきた。そもそも趣味の範疇である舞台芸術を、不特定多数を相手にしてPR活動することには効果の見えないもどかしさがあり、果たしてどれだけの新しい観客を創造出来たかは極めて心もとない。

②レポートの提出

舞台芸術の知識や鑑賞経験の少ない私では、内容の乏しいものしか書けなかつたが決められたレポートは総て提出したはずである。ホールの運営についても、事情を知らぬままに随分と勝手な意見を書かせていただいた。いま思い返せば冷や汗ものである・・・。

③研修会、講座への出席

こんなにありがたく楽しい任務は他に無いであろう。ホールの設備の裏側や、リハーサルの見学、一流の講師の講義など、基礎知識に疎い私はどのカリキュラムにも興味をかきたてられ随分と楽しい時間を過ごすことができた。

このように楽しく務めた6年間ではあったが、私達サポーターはチラシ配りだけでなくもっと何かの役割を与えられて、ホールのために直接的に活動することを期待して応募したはずである。ホールからすればボランティアという立場を尊重されているのか、かつてある職員からお聞きしたように「アンチびわ湖ホールを作りたくない」という配慮が働いているのか、なにかもう一つ物足りなさを感じたのも事実である。双方のコミュニケーションをもっと盛んにして、協同して（作業に）取り組むことが出来ないものだろうか？受動的なボランティア活動ではなく、もっと主体的にホールに提案すべきであったかと悔やまれる。私がいつも言うように、単なる「観客予備軍」では勿体無い気がしてならないからである。

<自主交流会の活動>

サポーターになって2年が過ぎた頃、有志と語り合い自主交流会に「世話人会」を作り、先輩諸氏が続けてこられた交流会活動を、少し欲張って年間計画に基づく定期的なものにした。4つの分科会、交流誌「ハルモニア」の定期発行、ハイキング、食事会、メーリングリストでの情報交換など現在の形が出来上がった。しかしこれが決してベストではない。多くのサポーターが参加される楽しい活動に盛り上げていって欲しいものである。

ここでお会いした沢山の方々との交遊は、それまで見向きもしなかったオペラやバレエなどへの目を開かせてくれ、私の生活に刺激と潤いを与えてくれている。

<署名運動>

忘れてはならない出来事が2008年の3月に突然起こった。滋賀県議会における「びわ湖ホール休館」の議員提案の動きに対して、「びわ湖ホールを応援する会」に加わり議案提出に反対の署名活動を全国的に展開した。多くのサポーターが署名を集め、更にはその集計作業も行った。結果は周知のとおり約30,000名もの署名が集まり議会提案は行われず、全国紙にも採り上げられるなど随分と反響を呼んだ。

このことで公共ホールの運営の難しさを知ると同時に残念に思ったこともいくつかある。予算配分をめぐり「福祉か？芸術か？」の二者択一的な論議が行われたことがその一つ。また一つは、他府県からの観客が多いことを理由にして、そのため滋賀県民の税金が投入されることは納得できないとの意見があったことである。びわ湖ホールは全国にも数少ない設備を持った本格的なオペラホールであり、世界の一流の芸術家からも高い評価を得ているのである。県民以外の観客が多いことを喜びこそそれ非難する理由は無いと思うがどうだろうか・・・。むしろ日本各地から、いや世界各国から人が訪れる大津の街に賑わいがもたらされることを願い、「おらが自慢のホール」として育てることを考えて欲しいものである。

以上

運命的出会いから卒業までの6年間

11期 西村 典子

(過去5年に書いた事は省略して簡潔に)

〈かんぱり事〉 ★チラシ配付部数が30部になると. その中からチラシを買って下の方から少しこれぞれといふした事。

〈嬉しかった事〉 ★バックステージ見学とはいえ. 大ホールの舞台に立てた事. 金まきいやセリ上等の♪♪♪スター気分を体験できました。舞台好きには不思議ない魅力です。

★自主交流会の演劇令科会で. 私の基礎講座に参加者がありました。

本格オペラハウスのお客様に宝塚を語るはちよと勇氣あります

〈良かった事〉 ★基礎講座や鑑賞研修. 自主交流会の分科会を通して. 私が主も期待していた舞台芸術に関する知識が広かり深まること。

★なかなか. なかなか同じ趣味を持つ方々と舞台について深くお話を機会を持てたこと

〈楽しかった事〉 ★基礎講座でいろいろな分野の専門家の方からお話を聞けたこと

〈残念だった事〉 ★舞台に係わるまだまだ知らない各種の仕事があると思うが. もと多くの方のお話を聞いたことがあります

〈困った事〉 ★ボランティアの中のボランティアとして引き受けた自主交流会の世話人の活動に対して. サポーターの中から世話人団に対する謂われのない批難を受けたり. 問題を持ち込まされていました。

〈かわらの私〉 ★任期6年とはなんと短いと思いつかう邊り. 3ヶ月が近づくと卒業したら何が何でも終わるのか? と考えてしまひましたが. 公演やOB参加の催しには出掛かり. 自主交流会の分科会講師も続ければと思ふと結局のところ今まであまり変わらなかつたと少し安心しました。ホールの皆様サポーターの皆様 6年間 いろいろとありがとうございました。 OBにはとてもよくお顔が見えます。

サポーター活動記録

2008年12月25日

第12期 岡崎英子

びわ湖ホール3月事件を皮切りに、...、関西地区ではオーケストラへの予算削減や、中止案が続々と発表され受難の年の始まりでした。その様なこととは別にサポーターでありながら、、、サポーター活動の積極的広報活動を辞めることを秘かに心を決めていました。...、と同時に昨年は余り出席をする事が無かった分科会や交流会には出る事、本当に聴きたいと思った演奏会にのみチケット購入して、と。

分科会などに出席して顔馴染みになりサポーターの方達に沢山の事を教えていただき楽しい交流が出来ました。

昨年は活動中に感じた違和感はどうしても拭いきれず、なぜ滋賀県にこのような大ホールが建設されたのか？滋賀県は文化不毛の土地がらと自嘲気味に言われていることも実感しつつさまざまな疑問がありました。

亀のように首を出すだけでキヨロキヨロ、耳はダンボのように大きく観察にこれ勤めました。今更ですが判ったことは文化不毛ではなく文化の質がまったく違う事に気が付きました。（まるで蛍光灯の様な感性の私です）バスや電車を乗り継いで高い（関心の無い人達には高額）チケット代を出して鑑賞に出かけるなんて事はしない人達が大部分、楽しみ方もまったく違う人達が多いようです。

私が出来ることは？？時間とOOが許す限りホールへ出掛けたいと思いました。余り深く考えずホールへ出掛けることで気分が良く楽しい時間がもてる幸せに感謝して来春からの公演を楽しみにしています。
そして今年はTVや新聞に取り上げられる回数が増えてより多くの人達に関心を持っていただける様になた事と思います。

劇場サボーター 活動記録集 びわ湖ホールのレバと自主交流会活動 12期 倉本 直治

◎2008年の演劇界も、一見、重層するかに見えて予定調和娛樂重視のストーリーと知名度の高さで選ばれる出演者の皮相な演技に野合する観客との馴れ合い芝居が多かった中に、老いと死に迫る●平田オリザの【眠れない夜なんてない】。〔戦時下にある〕現代日本の主権者であるべきわれわれ国民に鋭く斬りつけた●坂手洋二の【戦争と市民】。在日というルツを突きつける●鄭義信の【焼肉ドラゴン】。●【新薄雪物語】や【大老】に見せた苦渋の人間の深さを祖父初代・実父先代幸四郎から見事に受け継いだ現吉右衛門などの演目を”お仕着せ”でなく、びわ湖ホールでも、ぜひ観たいもの。

◎自主交流会 活動 (2005~2008年)

♪ オペラ・声楽分化会

- 1回 2005. 11. 5 オペラの愉しみ ABC (佐々木浩一郎)
- 2回 2006. 2. 25 モーツアルト のオペラ (佐々木浩一郎)
- 3回 6. 17 ベルカント唱法について (佐々木浩一郎)
- 4回 10. 22 バス歌手の魅力 (佐々木浩一郎)
- 5回 2007. 4. 28 わたしのこの 1枚～ お気に 入りのDVD/CDなどの 鑑賞
- 6回 10. 6 「こひと」 「アーサー王」 の CD鑑賞 (佐々木浩一郎・松居敏彦)
わたしのこの 1枚～ お気に 入りのDVD/CDなどの 鑑賞
- 7回 2008. 1. 26 「物の騎士」 の観どころ・聴きどころ (佐々木浩一郎・松居敏彦)
- 8回 5. 25 「椿姫」 全曲(DVD) 鑑賞 (樋口敢)
- 9回 9. 7 「サメ」 DVD 鑑賞 & 「ラボー講座」 (佐々木浩一郎・松居敏彦)

♪♪ バレエ・ダンス 分化会

- 1回 2006. 4. 16 [踊り] って何? ~軽切り! シコ切り! サメ切り! ~ (青山典子)
- 2回 7. 23 バレエ [白鳥の湖] の 比較研究 (青山典子)
- 3回 12. 17 男性ダンサーの 役割から見た バレエ の 歴史 (青山典子)
- 4回 2007. 3. 25 実践! バーレッスン (青山典子)
- 5回 7. 16 全幕バレエ [椿姫] の 鑑賞 (青山典子)
- 6回 11. 4 シルヴィ・ギエム の 魅力について (青山典子)
- 7回 2008. 2. 10 国際バレエコンクールを 見てみよう! (青山典子)
- 8回 6. 15 バ・ド・ドゥ を楽しむ～ABT ガラの 演目を 中心に ~ (青山典子)
- 9回 10. 19 [ロメオとジュリエット] の映画と バレエ を 比較して (青山典子)

♪♪♪シンホニー・器楽分化会

- 1回 2006. 1. 21 '06 新春サボーター 音楽放談会 (松江延浩)
- 2回 5. 27 聞いてよこの 曲! この話! ~想い 出の 曲などの 紹介 (酒井寛治)
- 3回 9. 2 サボーターによる 弦楽 4重奏コンサート(横井靖男 & 「アンサンブル・ヌフ」 の メンバー)
- 4回 2007. 2. 25 スコア・リーディング超入門～小林道夫の公演で 演奏される 曲を～ (横井靖男)
- 5回 6. 17 ござわりの 1枚・思い 出の 1枚などを 鑑賞しながら語り 合う(澤薰・神野直子)
- 6回 9. 1 沼尻監督 & N響公開 リハーサル見学 &懇談
- 7回 2008. 3. 8 真空管アンプ で LPレコードを 聴こう! (宮田政広)
- 8回 7. 27 コミックのため コンサート～真空管アンプ で聴こう第 2弾～ (宮田政広)
- 9回 11. 16 どちらが 好き ? モーツアルトVSベートーヴェン (酒井寛治)

♪♪♪♪演劇・古典芸能分化会

- 1回 2006. 8. 5 映像を 見ながら 演劇や ミュージカルについて語り 合う (西村茂美)
- 2回 11. 12 宝塚DEオペラ (西村典子)
- 3回 2007. 1. 27 現代演劇について～「書く 女」を 中心に ~ (倉本 直治)
- 4回 5. 26 「籠釣瓶花街酔醒」に見る 歌舞伎の 楽しみと 歌舞伎鑑賞の “いふせ” (倉本直治)
- 5回 8. 26 ざくばらん 演劇のお話はいふか?(演劇裏話) (橘まみ)
- 6回 12. 15 「ザンクロスレビュー」 鑑賞と宝塚豆知識 (西村典子)
- 7回 2008. 4. 26 現五世坂東玉三郎の舞踊(VHSを見ながら) (倉本直治)
- 8回 8. 24 「勧進帳」の 見どころ (倉本直治)

劇場サポーターの声

自分のできる範囲で活動してきた2年間

第12期 真島克子

2年間の定期的な活動は…本当にごく親しい身近なところへのパンフ配布(2~3部)

- ・大阪本町にある知り合いのギャラリーで
- ・心斎橋で個人美容室をされてるところで
- ・同じ趣味、思考の友人には月間スケジュールを

反省点…今期までは仕事が忙しかった為なかなか自分で足を運んで舞台鑑賞できたのは僅かでした。口頭でアピールが足りなかった。

今後の抱負…びわ湖ホールが好きでサポーター活動を始めた頃の気持ちを思い出して、自分のできる範囲ではありますが感動を人に伝えたいです。

以上

サポーターになって、はや2年

12期 松岡 寿子

びわ湖ホールからずつしりと重いメール便が届く。

「今日は何の案内かしら？」おもむろに封を切り、中身を確かめる。必要なものは、手帳にメモし、念のため、冷蔵庫のドアに忘れちゃいけないものを、マグネットで貼り付ける。チラシはセットし、友人たちのもとへ。

そんな作業（？）をしているうちに、はや2年！まさに「光陰矢の如し」を実感する。

講座や自主交流研修会、公演の休憩時、あるいはハイキング等でたくさんの仲間と知り合いになり、いろんなことを知らず知らずのうちに学ばせていただいた。1年目は遠慮がちに参加させて頂いてたはずなのに、いつの間にか、談笑しながら席に着くようになっている。と同時に話の内容もしっかりと（？）と耳に入ってくるようになった。

友人にチラシをお渡しすると、何人かはそれぞれチケットを買ってくださるようになってきた。私を通じてだったり、個人的にであったりであるが・・・。先日は私がオペラ「トゥーランドット」を迷っていたら、しっかりと「行きましょうよ！」と反対に誘われてしまった。「これって、嬉しい悲鳴？」と思いながら、私もチケットを2枚（娘を誘って）買わしていただいた。また友人の1人は、私が3年の任期を終えたら、後ついでサポート一になってくださることのこと。嬉しいかぎりだ。

昨年末には、うれしい初体験もすることができた。なんとステージの上で、「ブラヴォー」をうけてしまったのだ。彦根市では、毎年末に『第9』の市民でづくり演奏会をしている。勿論指揮とソロはプロの方だが・・・。ところがどういう訳か、昨年はフォーレの『レクイエム』とマーラーの『復活』だった。私は、昨年母を亡くしていたので、その2曲に吸い寄せられるように参加申込みをした。『レクイエム』は母に捧げるため、『復活』は母にでもあるが、私自身のためにと。どちらも大作な上に、経験のない素人の私にとって、練習は青息吐息の、落ちこぼれだったが（ご指導して下さった先生方には、本当に心から感謝！）当日は、見事（？）感動のうちに歌いきり、拍手をうけたわけである。勿論合唱団の小1員としてではあるが・・・。その時、「ブラヴォー」を耳にし、「ああ、この感覚。なんともいえない、いい気持ち！」と感激した。

今まででは、客席で聞いていただけだったが、舞台で聞くとまた違う「ブラヴォー」にきこえてくる。「これなんだ。演者の喜びは！」と思った時、「私も本当に感動した時は、恥ずかしがらずにいってみよう。例え小さな声でもいいから」と自分に言っていた。だって、演者にとって拍手もさることながら、これほどの激励、感激はそうありませんもの・・・

昨年の今頃は、「音楽やオペラに、以前よりも親しみがもてるようになってきた」と書かせて頂いたが、今年度はもう1歩進んで、受身のみであった私から、少しではあるが、能動的な気持ちに変化してきた1年であったと思う。「もっと知りたい。音楽の背景や作曲家の時代背景を」とか「オペラのこの演出はどうかしら？」等々と。後1年、じっくり楽しませていただきたい。そして、1人でも多くの人にびわ湖ホールでの面白さ楽しさを伝えたい。と共に、現サポートー・OBの方々との友好を深めていきたいと思っている。

びわ湖ホールサポーターとしての私

私は大津市内に勤める30代のOLで、普段は遺伝子治療薬の開発をしています。パソコン操作になじんでいたので自主交流会の世話人会からハルモニア編集の係をいただきました。舞台芸術には詳しくなかったのですが、サポーターとして主体的にかかわれる仕事があって本当にありがたいと思っております。

ハルモニアはサポーター発の機関誌で、すでに12年の歴史があります。そのよさを保つつつホール発の機関誌との違いをどう出していくかが工夫のしどころかと思っています。また限られた作業時間、機械の性能などをどう使っていくかに苦労しました。これまでの仕事一本やりでの時間の使い方ではどうにもならず、はじめとてもご迷惑をおかけしました。掲載しそびれた原稿を出してしまったほどです。

でも今年も担当させていただきます。皆様、楽しい原稿をお寄せください。また挿絵などもぜひ！！今は表紙、裏表紙以外はパソコン用の挿絵画像を使っていますのでまだまだいけます。

今年度の抱負はどうなったか

昨年度の活動記録で書いております今年度の目標は「知人の人となりをよく知ることでチケットの販促3枚を目指す」「私自身の舞台芸術への敷居を低くする」というものでした。

おかげさまで知人とはより楽しく付き合えるようになり、豊かな人付き合いのきっかけが広がってきました。チケット販促は、短期的にも成果がほしいところでしたが、目標に届きませんでした。しかしサポーターであるなしにかかわらずホールのファンでなくなるわけでもないので、この点については長い目で見ていこうと考えるようになりました。

舞台芸術はたくさん見ました。感想をmixiのブログに書き込んで友人たちにアピールして楽しみました。チケット代として月に1万円の予算を取るなど、計画的に支出する術などを自分なりに考える経験もできました。

来年度は！

昨年は意図してS席だけを購入していましたが、今年は数を見てみようと思います。そしてびわ湖ホールでない会場にも行ってきます。会場の空気感も観賞の一部だということがわかつてきました。

ハルモニア編集。自主交流会に出られない方、自主交流会そのものの敷居を高いと感じられている方にもなじめる内容も盛り込みたいです。

自分が「はまれる」ジャンルが見えてくるといいな。これまでとにかく知識を仕入れようという意図で観賞してしまったので、今年は「楽しいかどうか」「好きかどうか」自分の感性で鑑賞したいと思います。おもわず「ブラボー」といっている自分を夢見て。

サポーター活動を通してのふれあい

12期 梁瀬多嘉子

今年も沢山の公演に行くことができ、素敵な時間が持てて幸せでした。

私はほかのサポーターの方々のように、分科会にあまり出席できませんので、たまたま公演の日に出会った人達と、お話をするぐらいで、親密な仲間同士のおつきあいはありません。メールを垣間見て、いいな・・・と思っているぐらいです。

チラシは前にも書きましたが、知人に渡す他は近くの可児市文化創造センター、多治見市文化会館、扶桑文化会館等へ持参します。

「いつか行ってみたいホール」、例により出先のすみだトリフォニーホールで出会った人に、びわ湖ホールのことをお話した時の聞いた言葉です。

今年は行ったことのないホールとして、東京カテドラル聖マリアンヌ大聖堂、すみだトリフォニーホール、浜離宮朝日ホール、東劇、サンケイブリーゼ、と尋ねながら行つきました。自分から望んで行ったその会場での公演は、とても印象深いものです。出会った人のお話の中でも、相手の方からも別の情報をいただきます。

帰りに意気投合したら、帰る途中でお茶をご一緒する、何度か食事をした事もあり、ともに感激を分ち合いました。同じ趣味の集まりの中での触れ合いで、生きていてよかったです。幸せと感じるひとときです。またお会いしましょう・・・出来るといいですね。で別れますですがこの様なことも、もし私がサポーターになっていなかつたら、また違った展開だと思います。

今年はMETのライブビューイングで、メトロポリタン歌劇場の「オペラ」の映画化したものを見る機会に恵まれて、嬉しく思っています。これはニューヨークに行くことは無理なので、この機会にできるだけ見たいと、思っているところです。 びわ湖ホールも、せっかく余所にはない、舞台を持っているのですから、ホールの良さを生かした催しの企画を、期待しています。

魅力いっぱいのびわ湖ホール

—何がそんなに面白いんだ—

第12期 渡部兼治

第6期と12期のサポーターを勤めて6年目、遂に最終年を迎える。活動するのが困難で休んだ3年間も月1回はびわ湖ホールに足を運んでいた。何かの魅力に惹かれていたのであろう。それらを思い返し、今後何をしていくかを考える基点になればとまとめてみた。

- ① 初めてびわ湖ホールを見たとき「びわ湖湖畔に舞い降りた2羽の白鳥」に見えた。大小二つの建物だけでなく施設・装置が素晴らしい。またそれを操作する人たちの熱意にも感心した。舞台芸術の成果は演じる人だけの力量ではない。バラエティに富む企画、一つ一つの奥深さ、ホールで応対する人々、興味は際限なく広がった。
- ② オペラ公演には最適のホールで設備は国内一、二を競う。音響は大小ホールの特徴を活かせば管弦楽、室内楽など何でも来い。演劇、バレー、古典芸能にも向く。時々ロビー、リハーサル室、舞台裏まで公演に使われる所以、隅々まで知っていると我が家のように落ち着いて観賞できる。何回施設見学があっても面白い。
- ③ 芸術監督が沼尻監督になって若杉監督時代とは違った雰囲気が広がった。音楽的にはそれぞれの個性とも好きだが、現監督は何となく親近感が湧く。音楽のやさしい解説、コンサート、サポーターパーティー等直に話を聞く機会が増えたこともある。だが何よりの魅力は、練習や本番前を見学する機会に、若さと活力に溢れた指揮を通して新しいセンスの音楽づくりが進む過程を見ることがある。
- ④ 声楽アンサンブルのメンバーが最近かなり変わった。オペラ「フィガロ」「魔笛」などソリストとしての活躍も増え、アンサンブルの良さに加えて個性的な声がより明確になり魅力が増した。サポーターの中には声、姿、技など各々ご墨塵の歌手があって、リサイタルなどの追っかけの話も聞く。ブラボーの声色が複数、複々数へと広がっていくのも楽しみである。
- ⑤ サポーターの自主交流会が活発に続いているのは有難い。OBも新人も区別なく気軽に意見が飛び交っている様子を見ると心が和む。得意なジャンルを超えて交流が深まっている証拠もある。そこからハイキングや史跡めぐり、食べ歩きの話へと発展していくのは結構なこと。ホール関係の話題が上るのもうれしい。
- ⑥ サポーターにはこだわり派が多い。同じオペラを50回以上観た人、好きな歌は10人以上の歌手で聴き比べる人、難曲を何回も聴いて覚えてしまう人、公演は平均2日に1度、あるいは一日2回も行く人、万難を排して海外の音乐会に出かける人、聴くのも奏でるのもモーツアルトばかりの人、楽譜を隅々までチェックし演奏と比較する人…。こんな中から3人も集まれば話題は尽きず、メッチャ楽しい。
- ⑦ ホールのお世話役からチラシほかチケット販売や研修講座の案内など幅広い情報が次々と届く。当初は戸惑う人もあるだろうが、整理体制ができると親切で便利である。レポートに書いた感想や意見はそのままサポーターに読まれ、名案を提出すれば採用されることもある。“やる気”を誘われること請け合いである。
- ⑧ ついでの話。ホールから依頼があってコンテンポラリーダンスの主役級?に出演、以来ダンスは現代的なものほど興味を示すタイプに変身した。あなたにもびわ湖ホールの舞台に立って人生が一変する機会が訪れるかもしれない。

以上は自分からみた魅力だから異論は大歓迎。興味を持つ人と詳しく話し会いたい。

サポーター1年目を振り返って

13期 芦谷恵美子

昨年の今頃、サポーター応募用紙を手に、びわ湖ホールに興味はあるものの、「舞台芸術」に気後れを感じ、「やっぱりやめとこ！」と繰り返し思ったことが懐かしく思われます。そのつど、11期川口さんの「私でもやってるんやから！」と、謙虚なお言葉を励ましと受け、背中を押していただき、戸惑いながらのサポーターのスタートでした。

今、振り返ってみると、基礎講座、分科会では初めて知ることばかり、公演鑑賞ではただただ感動、レポート提出にはプレッシャーを感じつつ、あっという間の1年でした。なかでも、一番の感動と思い出は、オペラ「フィガロの結婚」でした。オペラの基礎講座に始まり、プレトーク・マチネ、立ち稽古の見学、ゲネプロ見学・・・ゲネプロに関しては意味がわからず、あわてて辞書を引いたものです。

作品に対して知識を得たお陰で、字幕ばかりに気を取られることもなく、一度に、歌・お芝居・オーケストラと楽しむことが出来ました。

PR活動においては、毎月のパンフとチラシを、友人ご近所の方に手渡しするだけでしたが、徐々に趣味の教室、ボランティアの場と持ち歩くようにしました。

びわ湖ホールを身近に感じない人の多い中、ロビーコンサートのチラシを一番上にして、無料をメリットに、気軽に足を運んでほしいと思いました。

今では、ロビーコンサートは皆勤賞よ！と、楽しみにしておられるご近所の方々、「ついでにチケット買ってきた！」と、うれしい報告をしてくださる。

都はるみ一辺倒の友人は、ロビーコンサートをきっかけに、第1回「こどものための管弦楽教室」に出かけてくれました。

第2回目はご夫婦でチケット購入、これもうれしい出来事でした。

チケット取りまとめに関しては、配布したチラシの中で対象外がけっこう多く、知り合いのおじいちゃんは、「配ったチラシやったら、注文受けてくれな困るがな！」と、ウンウン。それでも毎月のチラシを心待ちにして下さり、3月の狂言「唐人相撲」は何よりの楽しみとか。サポーターとしてこの1年、多くを学ぶ機会をいただき、新たなことに興味を持ち、楽しみの場を広げることが出来ました。

2年目に向け、チラシやパンフと一緒に、公演の内容やポイントを話題に出来ればと思っています。

文化とは、耕すこと

署名活動で協力していただいた方に久しぶりにお会いし
「びわ湖ホールどうなったの？」と聞かれ、私があいまいな返事をすると
「文化ってね、生活が豊かになったから、さあやりましょうってものじゃない
のよ。」って。

そうです。文化とはキュルテュール（仏語で耕作、耕すこと）苦しい時こそ
文化が必要。心の栄養です。

私事ですが、昨年は沢山のクラシック（取分けオペラ）を鑑賞することが
出来ました。30年間の鬱積が、その蓋がポンとはずれ一気に噴出してきた
と云う感じです。こんなにもクラシック音楽に浸れる日々をかつて想像したで
しょうか？

大津に転居しひわ湖ホールのサポーターにさせて頂き、自主交流会などを通
じて多くの方々にレクチャーして頂き楽しむことが出来るようになりました。

ありがとう、びわ湖ホール。

(サポーター制度を考えて頂いた前館長上原さんに感謝です。)

13期 伊藤 恵子

劇場サポーターとして一初年度の感想一

第13期 宇田 朗子

2008年度は、劇場サポーターとしてびわ湖ホールの芸術に触れる機会ができ、とても幸せでした。

まず、各分科会で、サポーターの先輩方とさまざまな舞台芸術についてお話を聞くことができました。みなさん、とても知識が広く深く、インテリジェントな方々ばかりですが、全然偉そぶるところがなく、私のような舞台芸術ビギナーにでも、分け隔てなく接してくださり、肩身が狭い思いをすることはありませんでした。

皆さん、舞台芸術を本当に心から楽しんでおられ、また、びわ湖ホールを大切に思っておられる。その芸術を、びわ湖ホールを愛する想いが、みんなを一つにし、調和が生まれている！そのような雰囲気がいつも伝わっていました。

そして私も、その中のひとりに加わっていることに、喜びを感じています。

私は、現在県内の大学で職員をしておりまますので、同僚や学生たちにチラシを配っておりました。びわ湖ホールがどこにあるか、どのような事業を展開しているか、ロビーコンサートや分科会についてなどさまざまな形で紹介を重ねましたが、残念ながら、なかなかチケット購入までいたらず、もっぱら家族を伴ってホールを訪れました。

その多くは母ですが、母はいつも、ライブ（生）のすばらしさ、迫力に感動して涙していました。私も、仕事を終え年金生活者になった母に、オペラや歌舞伎などを見てもらうことができ、それも、サポーターとしての特権（！？）で手に入れた、前列の素晴らしい席に母を案内することができ大変ありがたく、感謝しております。

来年度は、さらに、外に向け、びわ湖ホールの存在をアピールしていきたいです。
小さいことでも、小さな機会でも、びわ湖ホールのPRになるなら、
自ら発信して、一人でも多くお人にびわ湖ホールに足を向けていただける機会を作るよう努力したいです。

『びわこホールと盛り上げたい』

オ13期 木田 正子

劇場サポーターになって 約一年が過ぎた。

それ以前は、どうくみか。私の回りが変化したのが
教えてよかったです。

一番変わったのは、私が送った(或いは手渡したもの)チラシを見た友人が、「○○を是非観たい」と言ってくれた時。劇場へ足を運んでくれた時、「また。また誘ってね」と言ってくれた時に、本当にうれしいと感じるようになりましたことである。この喜びは今まで知らなかっただすことである。びわこホールを私の劇場と思い、この素晴らしいホールをみんなに知ってもらいたいと、本心から思えるのである。それが伝えた時のうれしさ!

次に変わったのは、オペラといつ総合芸術と、知りたい見たい聞きたい味わいたいへと思う私になってしまったのがあげられる。若い時は新劇一邊倒。人生の歩みと共に歌舞伎や能、奇譲、ミュージカル・バレエと、サレズつ中が広くなってきた。オペラは「食わず嫌い」の芸術だった。びわこホールに通うようになってオペラの楽しさを知った。その魅力のどりこに感動している。

三つ目に変わったのは、60歳を過ぎて、自分も合唱团に入ってきたはじめのこと。サポーターに応募する一方で、国貿劇場のチラシをもらつたのも昨年の「ばらの騎士」を観たり帰りだつた。出会いとは本当に素敵。

(さて不思議)

劇場サポーターの声

第13期 黒崎道雄



この1年間、びわ湖ホールの第13期劇場サポーターとして登録いただきました。びわ湖ホールへのサポートにはほとんど貢献できず、大変心苦しく思っておりますが、事務局で企画いただいた参加行事で、印象に残った催し物について、ご報告したいと思います。

① ホールのご案内

舞台の上にはじめて立たせていただき、普段会場から見る景色と異なり、演奏者の気を味わえるとともに、大ホールの大きさに感動しました。

② 海老沢敏先生の講演

モーツアルト研究の第1人者である海老沢敏先生は、私の高校時代にNHKラジオの音楽番組で「モーツアルトの光と影」という連続放送をされていました。夜遅い時間帯でしたので、穏やかな口調で語られる先生のお話と声が、大学受験勉強をしながら聴く私の耳に大変印象に残っておりましたが、今回当時の口調と全く変わらないお元気なお姿の中にもゆったりとしたお話に癒され、3年前に訪れたザルツブルグの風景とともに当時の思い出が甦りました。

③ 魔笛

今まで、モーツアルトの歌劇として、フィガロの結婚、コシファン・トゥッテを鑑賞させていただきましたが、今回は日本語で親しみやすく、地元のお子さんも出演されるなど、青少年を対象としたレベルの高い普及プログラムとして、今後も続けられることを期待します。

毎月お送りいただいているチケット情報は、ピアノの先生や、会社の互助会担当者を通じてPRしていますが、どの程度参加者の増加に貢献したかはわかりません。ただし、確実に言えることは、私の家内が毎回、ロビーコンサートに参加させていただいているということです。

最後に、私が撮影した「びわ湖ホールから見る琵琶湖」の写真をご紹介します。びわ湖ホールは聴く楽しみとともに、景色を眺め愉しむ(たのしむ)場でもあるということです。市街地で雄大な琵琶湖を眺めるには、整備された湖岸緑地とともに、湖岸に建つ音楽ホールは絶好の場所です。この写真は、近畿知事会が主催している「美し(うまし)近畿景観向上プロジェクト」の中の→「美し(うまし)風景」→「滋賀県」の中に搭載されています。併せとご覧いただきたいと思います。

もったいないから…

第13期劇場サポーター
寒蝉由美

下の子供たちが小学校高学年になり、そろそろ本物の舞台芸術を鑑賞する機会を与えてやりたいと考えていた時、びわ湖ホール劇場サポーター募集のチラシを見つけ応募しました。近くにあって遠い存在であったびわ湖ホールを、自分たちが上手に利用したいというのが応募の動機でした。

引っ越してからの過去10年間、びわ湖ホールに足を運んだのはたった3回だけでしたが、劇場サポーターとなった今年は、子供たちと一緒に足を運んだ催しだけでも8回、私が参加したり鑑賞したりした催しは数え切れなくらいです。この1年の最大の収穫は、子供たちがオペラに対して、自分たちでも理解でき楽しめるものという認識を持ったことです。

オペラはすべてが生上演なので一般にチケットは高額で、なかなか子供を連れて気軽に見に行くことはできないのですが、びわ湖ホールでは価格をおさえた公演も催されており、子供たちと生の芸術を気軽に楽しむことができます。このことは滋賀県が日本中に、そして世界中に誇れることであり、滋賀県の文化的意識の高さを示すものだと思います。

こんなにすばらしい催しが提供されているのに、何故県民はこの機会を利用しないのでしょうか。先日の「魔笛」も子供から大人まで楽しめ、明るい気持ちをみんなで共有できるような素敵な公演でしたが、サポーターとして残念に思うのは親がその価値を前もって理解できず、金額的には十分可能なのに子供たちに鑑賞の機会を与えてやれない場合が多いということです。

オペラに限らず、演目に感動した後の心の軽さは病みつきになるほどの快感で、家に帰ってからたとえ山盛りの汚れた食器洗いが待っていようとも、スキップしたくなるような気持ちで毎回家路につきます。身近にこんなにすばらしいホールがあって良いものを提供してくれるのだから、おおいに利用しなければかえってもったいないと思います。周りの人たちにもこの気持ちがそれとなく伝わっていくようなサポーター活動をこれからもして行きたいと思います。

もったいないから、まず自分からびわ湖ホールに足を運んで舞台芸術を楽しもう！というのがサポーター1年目の私が心がけたことです。

13期 村上留美子

私のサポートの活動は4月の舞台裏見学に始まりました。真近に見る舞台裏の仕掛けに興味は尽きず大ホールでの鑑賞を心待ちにいたものです。基礎講座は二度参加しました。オペラ編では様々なタイプの声楽家の声を役柄と共にDVDで聴き、オペラ鑑賞の良き予備知識となりました。

芸術鑑賞研修では「フィガロの結婚」

「山海塾『時のなかの時へ』」

「ギリスバロックへアラフの愛のかたち」

9月にはびわ湖ホール10周年記念「オペラ・ガラコンサート」

11月は小松亮太「リオとブエノスの果実」ではやっと娘等二人を連れて来ることができました。

私自身はびわ湖ホールに行く日は娘には仕事を休みを合わせてもらい、家事をまかせては、大津に出てついて「とばか」石山寺や義仲寺に足を伸ばし、日ひっはい肇しんで帰ります。先日、NHKの屋のTVでびわ湖ホールの内部を案内している番組がありました。

同居の義母が「びわ湖ホールがうつってるよ」と教えてくれTVを見ると声楽アンサンブルの面々がおらず、とても寂しいを感じました。(勝手ながら)

日頃、びわ湖ホールのこと口にするのを聞かせてくっていたのかなとちょっと嬉しい思ったものです。

それが毎月お渡している「パンフ」もそういう役目をしてくれ、少いでも多くの人がびわ湖ホールに来ていただければと思ってます。

関西一から日本一のホールに

第13期サポーター 森田圭子

1998年、ついに関西初のオペラバレエ劇場となるびわこホールが誕生した時は長年のバレエファンの私にとって嬉しい瞬間でした。そして今年一年間サポーター活動に参加させていただくことができ、色々なことを勉強させていただきました。

私がサポーターになった一番の理由は、劇場を運営されるすべてのスタッフの皆様に観客の思いを伝えたかったからです。びわこホールは開館当時より、非常に芸術性の高い、斬新な公演を次々に行ってこられ、その成果がここ数年あらわれてきたように思います。バレエに限っていえば明らかに、観客の層が変わってきているのです。一般のお客様はもちろんですが、バレエ関係者の方が遠方も含め大変多くなりました。公演内容もキャストもそのカンパニーの一番のものをびわこホールにもってくるようになったからです。「白鳥の湖」はバレエの代名詞のような作品ですが、びわこホールの大ホールほどこの作品が似合うホールがあるでしょうか！ロビーの目の前いっぱいに広がるびわ湖の光景はこのホールの大きな魅力の一つです。

観客が見ているのは公演だけではありません。いつもお掃除のいきとどいているロビー。あたたかな色合いのお花やインテリアの品のよさ、公演のたびに感心させられるスタッフの方々の対応。びわこホールが芸術ホールとして一流と感じるのは、そういう陰の見えない力の結集があってこそなのです。

サポーターをして一番よかったです、今まで見たことのない公演や勉強会に参加できたことです。サポーター自身が色々なジャンルを見聞きして、自分の芸術鑑賞の幅を広げるのは観客層の幅を広げていくきっかけの一歩になると思っています。

関西随一のオペラ劇場から、日本一注目される劇場を目指して、びわこホールが発展することを、期待しています。

〒520-0806 大津市打出浜 15-1
発行 財団法人びわ湖ホール
TEL 077-523-7133 FAX 077-523-7147
URL <http://www.biwako-hall.or.jp/>
